《仮》魔法少女　風の流星

黒金

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

《仮》魔法少女　風の流星

【Ｎコード】

Ｎ２３２８Ｚ

【作者名】

黒金

【あらすじ】

２つの世界で起こった　運命の大きな火事。取り残された　少年と少女。

２人は成長し、何を求め、何を得るのか・・・。魔法少女　風の流（ス）星（バル）始まります。

プロローグ　重なる炎

炎。
とうさん　と・・・かあさんがおれを　おいてでかけた。
おれは　こうえんでおんなのことふたりであそんでた　へいわなじかん・・・・。
もんげんがきて、おれとおんなのこはわかれた。
いえにかえると、　とおさん　と　かあさんがかえっていた。
かぞくでたべる　しょくじ・・・。

だけど、すべてが　炎につつまれた。

きがついた　おれはいえをでて　あるいた。
炎のなかでもえてる　とおさん　と　かあさんたちにふりかえらずに・・・。
どこへいくのか・・・・それすら　わからなかった。

そらはくろくにごっててて　まわりにはすべてのいえが　おもちゃのように　こわれていた。

炎。
それが　すべてだった。

こわれた　いえ　の中から　こえがきこえる。

タスケテ・・・・！　コレヲドカシテクレ・・・・！
タスケテ・・・・！　コノコヲツレテイッテ・・・・！
オイテイカナイデ・・・・！！！
タスケテ　タスケテ　タスケテ　タスケテ
タスケテ　タスケテ　タスケテ　タスケテ
タスケテ　タスケテ　タスケテ　タスケテ　タスケテ　タスケテ
タスケテ　タスケテ　タスケテ　タスケテ
タスケテ　タスケテ

そのすべてを　おれはふりきった。
きこえない・・・ふりをしたんだ。
とおさんとのやくそくをやぶって・・・・・。
でも、モウ　オモイダセナイ。

バシャン！

おれはよごれたみずのなかに　たおれた
もう・・・・あるけない。
からだを　あおむけ　にしてそらをみあげた。

くろくにごった　そら。
それがおれのすべて　のようにおもえた。

こんなそらも　いいな・・・・。
もっと、「いろんな」せかいをみてみたいなぁ・・・・・。

ドボン・・！

そんなおと　とどうじに　おれは　みずのなかにおちて・・・いっ

た・・・・・。

ｉｎスバル・ナカジマ

小さい頃の私は　本当に弱くって泣き虫だった。
小さな悲しいことや辛いことでも蹲って　泣いている事しかできなかった・・・。

私がギン姉と一緒に帰ってくる　お父さんを空港まで迎えに行った。
家族で一緒にデパートに行って、買い物や食事に行って・・・。
でも、その時に私は迷子になった。
平和な時間はスグに消えて・・・絶望の時間がやって来た。

どこか解らない所に行っていると、炎が燃え盛り始めた。
近くにいると思っていた　他の人達はすでに救助されていて、私だけが取り残された。
周りの炎の熱気が私の体力を奪い、ふらふらと火が比較的にないホールまで歩いた。
その時は走れる体力は・・・なかった。

崩れ始める建物が私を飛ばした。
その痛みで私は蹲って泣いてたんだ。

こんなの・・嫌だ。
痛いのは・・嫌だ。

そう・・・目の前に『あった』黒い水たまりを見るまでは・・・。
その黒い水たまりには赤い髪の男の子が倒れてた。

ミシッ・・ミシッ・・・

後ろで変な音が聞こえた。
けど、振り向かずに、男の子だけを見ていた。

黒い水たまりが何時の間にか消えて
男の子は目を覚まさずに、倒れたまま・・・・。

ドカァァァ・・・！！

後ろで・・大きな音が後ろで聞こえた。
振り返ると、天使の像が・・私の方へ落ちて来た。
綺麗なハズの天使の顔は・・・悪魔の様に、私を見ていた。

そんな時・・・。
私はあの人に・・会った。

天使の像を桃色の帯が巻きついて、落ちるのを止めていた。
その後ろに・・・白いバリアジャケットを身に付けた　天使の様な人・・・。
エース・オブ・エースと呼ばれる『高町なのは』さんが空に浮いていた。

助かった・・・！

私はこの人の嬉しそうで、悲しそうな顔を見て、涙がこぼれそうだった。
なのはさんの「もう　大丈夫」という言葉に意識が失いそうだった・・・！

そして、私にバリアの魔法を使ってからデバイスを天井に向けて・・・放った。
『ディバイン・バスター』。
なのはさんの得意な魔法の1つ。
その魔法は天井を貫いて、空にまで届いた。

私はなのはさんに連れてかれ、空いた天井から地獄の炎のような場所から抜け出して貰った。
炎の中から助けてもらって連れ出してくれた　その広い夜空は　風は冷たくって・・・。
抱きしめてくれる腕が温かくって・・・。
凄く綺麗だった。

「エントランスホール内での要救助者・・・女の子1名を救助しました・・・！」

『ありがとうございます！　流石高空魔導師のエース・オブ・エースですね！！』

「西側の救護隊に渡した後　スグに救助活動開始しますね。」

『おねがいします！！』

救助活動・・・？
なのはさんの言葉に、私は思い出した。
私の近くで倒れていた・・男の子の存在を・・・！！

「な、なのは・・さん・・！」

「ん・・？どうしたの？」

「男の子が・・・！まだ・・あそこ・・に・・！」

「！　わかった。　ちょっと、急ぐよ。」

なのはさんはスピードを上げて、私を救助隊に引き渡した後、スグに戻って行った。

助けてくれた　なのはさんは強くて、優しくてかっこよくて・・・泣いているばかりの私は・・自分が情けなくて・・悔しかった・・・。

自分に力があれば・・・あの男の子を助けれたのに・・・！

あの時に・・・私は誓った。心の奥から決めたんだ。

『強くなるんだ』って・・・。

何も出来なくて、泣いてばかりなのも・・・もう嫌だ！

私は・・・私が守りたいものを守るんだ。

地獄の様な火事から、ギン姉と一緒に体を鍛えた。

今なら男にも力なら負けない自信はある。

ギン姉から『シューティングアーツ』を習ったけど、まだ決めてが足りなかった。

私には『殴る』事しかできない。

だから　私は次元世界にある様々な格闘技を本で、映像で見て学んだ。

その中にある世界に　私はその世界に行って、武術、武道を道場で鍛え、学んだ。

師となる人、師弟兄弟達と『実力』を付けていった。

ミッドチルダに戻ってスグに　管理局・陸士訓練校に入った。

そこで、私のパートナーとなる人と会った。

そして、今日・・・。
私達は陸士ランクＢ試練を受けに来ていた。

シュ！　シュ！

拳が空で鳴る。
その後ろでパートナーのティアナ・ランスター・・・ティアがデバイスの調整をしていた。

「スバル・・・。
いい加減にしないと　試験中にそのオンボロローラーがいかれるわよ。
そうなったら、アンタの突撃力が一気にダウンするんだからね。」

ウッ・・・！
「ティア～・・・！不吉な事言わないでよ・・・！
ちゃんと朝に油も差した！」

準備運動をしながら、デバイスの調子を見る。
私が持つデバイスは２つ。
足に付けているローラーブレード
手に付けてる拳装着型アームドデバイス。
バリアジャケットはローラーの方が作成して、
『プロテクション』などの魔法は手甲で創り出す。
さてと・・・私もデバイスの調整しとこ・・・。

ローラーは・・・
水平対向６気筒４ストローク魔力エンジン
―――ＯＫ

スロットル
―――ＯＫ
サスペンション
―――ＯＫ
魔力伝導率
―――ＯＫ
コモン・コア・ブースター
―――ＯＫ
チャージ・ブースター
―――ＯＫ

ん・・。大丈夫だね。
えっと、手甲の方は・・・・。
フィンガーグローブ
―――ＯＫ
カートリッジシステム
―――ＯＫ

「ひび割れ等なし！準備ＯＫ！」

「こっちも、準備ＯＫ。」

ティアもＯＫみたいだし・・・・。
体を温めておこうかな！

プロローグ　重なる炎（後書き）

この小説は　『魔法少女　幽☆遊☆ティアナ』が詰まった時に思いついたモノです。
なので、ティアナより遅くなると思います。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2328z/

《仮》魔法少女　風の流星

2011年12月8日13時17分発行